

報告2：西村正男（関西学院大学）

「何日君再来」再考

「何日君再来」（オリジナル歌手は周璇、1937）は、中国の流行歌の中でも特に人口に膾炙した楽曲である。日本では今年『いつまた、君と～何日君再来』と題する映画も公開されたことも記憶に新しい。この曲の作者の謎、あるいは最初にこの曲を歌った周璇の人生、各種のカバーバージョンなどについては中藺英助『何日君再来物語』（1988）に詳しく、この曲を語る上では避けて通れない基本資料となっている。だが、現在の中国では作詞者については中藺の推理とは異なる結論が出されている。

本発表では、中藺が言及しなかったこの曲をめぐる言説やカバーバージョンなどに触れ、この曲が様々な政治的立場により中藺が示した以上に多様な解釈をされていると同時に、これまで知られていた以上にこの曲の持つ伝播の力が大きいことを示したい。具体的には以下のような例を取り上げる。日本映画『上海の女』（1952）や香港=中国映画『グランド・マスター』（一代宗師、2013）での使用例、朝鮮人歌手・夏目芙美子（羅仙嬌）のカバーバージョン（「支那夜曲—君何日再来」）、丹羽文雄の小説「何日君再来」と波多野乾一との論争などである。また、この曲の最初のレコードである周璇のバージョンで伴奏者としてクレジットされている「杜甫」についても言及し、この曲の持つ国際性を明らかにする。それと同時に、先に述べた作詞作曲者の謎についても解明を試みたい。